

e-ビーフNEWS 北の牧場から

November 2020

十勝は紅葉真盛り

先日、もみじが例年より3日遅れで真っ赤になり、イチヨウもあでやかな黄色に、十勝を代表する防風林のカラ松も燃えるような黄色になってきました。一昨日は、牧場の水たまりにも薄く氷が張り、氷点下の世界に突入です。刈り取り終えた畑に、白い塊が点々と広がっていました。よく見ると白鳥の大群が、南へ行く途中で羽を休めて落穂ひろいをしていました。JAS有機牛の釧路の牧場に向かうと、タンチョウのつがい点々と畑で落穂ひろいをしています。時々、今年生まれの子を連れていきます。

畑作業も最終章。畑屋さんは、最後の収穫物、ビート収穫でハーベスタを動かし、泥だらけになりながらピックアップしてゆきます。畑の各所には、収穫されたビートの山が積み上げられました。牧場の牧草収穫も終わり、町営牧場に預けていた牛たちも下牧、丸々と太り戻ってきました。草だけでも太るんだと改めて感心しました。札幌では、初雪の報。準備はできた、いつでも来いと身構えるこの頃です。



活動のお知らせ

- 10/29(木) …………… 帯広市 北海道畜産公社
第10回北海道肉専用種枝肉共励会 20頭出品
【北海道知事賞】宮北牧場、【会長賞】えりも高橋牧場
【赤身賞】北の牧場舎
- 10/29(木) 13:00-17:00………… とかちプラザ(帯広市)2階 視聴覚室
第17回資源循環型肉牛生産シンポジウム2020
日本産肉研究会第26回学術集会
シンポジウムテーマ「新型コロナウイルス感染症パンデミックの経験乗り越えて次の畜産を考える
～これからの新しい社会システムにおける畜産の生産、販売及び消費を見直す～」
道内外から約80名参加



NEWSばか読み

- 20年産米 作況指数101 平年並み 適正在庫の25万T超過
10/1:微妙でも在庫増え
- 日清食品、大塚食品 新興企業と食事業の創出を企画
10/1:コロナ禍で変わるライフスタイル
- 農産物輸出 回復傾向 魚介類・卵等、牛肉・日本酒は不振
10/2:物によって事情異なり
- 農研機構 地球温暖化で気温2℃上昇で世界の穀物被害8.4兆円
10/3:微妙でも大きな変化
- 20年度の飼料米作付面積7万ha 連続して減少 ピーク時より2万ha減
10/3:減った原因は?
- 牛肉 輸入減続く 外食需要の低迷、豪州産の高騰10/8:コロナ禍影響
- カルビー、ホクレン 半世紀超しの和解10/9:需要産地の変化
- 料理宅配 4万人超え 外食モデルに転記10/10:新ライフスタイル
- ノーベル平和賞に国連 世界食糧計画 紛争地の飢餓改善10/10:賞賛
- ワタミ 居酒屋業態から焼肉屋に大幅転換10/11:間に合うか
- 農林水産省 酒米の需要減から3割大幅減産必要 コロナ禍在庫膨れる
10/13:コメ対策
- アルゼンチン GM小麦栽培・消費を承認 世界初10/13:波及する可能性
- イノシシの生息域 越冬困難の東北に拡大 温暖化の影響
10/15:豚熱の拡散
- 佐賀大ほか 水田の微生物で発電10/15:弱小生物に注目

- 外食大手中間決済 減収減益で過去最大の赤字
10/15:飲みに行きたいけど
- 農林水産省 食品ロス(外食127万T)で「もってこ」ドギーバック推進
10/15:時差
- 農林水産省 21年主食米適正生産679万T 今年より30万T少
10/17:農業根幹
- 政府 福島第一原発処理水 22年から海洋放出10/17:いいのかな
- 中国アリババ 大手スーパー買収し生鮮宅配強化へ10/19:流通を握る
- 4-9月食糧輸出 4.1%増 東南アジア中国がけん引10/20:底力ある地域
- 生乳増産11ヶ月連続 都府県5か月ぶりに減10/21:順調な伸びも
- 菅総理 温暖化ガス2050年実質ゼロに10/22:今のところやる気
- ユニチャーム 使用済みのおむつの再生事業開始10/22:循環利用
- 宮城県知事 女川原発の再稼働に同意10/23:いいのかな
- 農水・環境省で連携強化 食と再エネ、地産地消10/24:縦割り解消
- 中国2035年 すべて環境車に10/28:思い切った政策
- 中標津ららふあーむ シイタケ菌廃床・戻したい肥で牛敷料利用
10/28:キノコでそう
- セブン・三井物産 低品質ペットボトル再利用事業開始
10/29:循環すすむ
- 米国牛肉 4-9月4%増 米国内レストラン需要減で日本ターゲット
10/30:来たぞ
- 20年産こめ 全国作況指数99%10/31:過剰解消ならず

東京直近NEWS(10/30 Shi-REPORT)

ホルス

ホルス相場は上げ戻し状況。
外食産業の回復から、冷凍含めコース関係の引合回復傾向。
赤身モモ部位も切落しスライスが順調により余剰はない。
但し決してホルスアイテムの荷動きが活発なわけではなく
頭数が少ない中で、一定オーダーは維持しているため余剰なしの状況。
切落し関係はスライス部位が動き始めているため、引き続き引合維持を予想。

経産牛

経産牛相場は依然高値維持している状態。
挽き材関係は需要維持から相変わらず市中不足傾向。
パーツ関係は外食がやや回復基調から冷凍含めオーダー回復傾向。
完全に停滞していたヒレ関係も問合せやや増加。
生体相場は高値維持し特に北海道産地一択の状況から
本州からも買い付け増えており、相場は冷める要素少ない。
年内この状況は大きく変わることはなく、年内高値維持で推移を予測。

1. 畜産技術#785.2020.10

1) 強化哺育を活用した和子牛育成技術の確立

(福田孝彦、鳥取県中小家畜試)

初乳製剤給与後の黒毛和種雄子牛に高タンパク低脂肪の代用乳(CP28%,EE18%)を5倍量の温湯に溶解して強化哺育を3ヵ月齢まで行いました。発育向上は3ヵ月齢までで8ヵ月齢以降の発育には差がみられず、消化不良性下痢などを抑制するルーメン機能の改善策が必要と思われました。

2) 家畜改良増殖目標の改訂-2-

(佐野弘光、農水・生産局畜産部)

本年3月公表のわが国肉用牛の改良増殖目標では消費者ニーズの多様化に配慮しオレイン酸など不飽和脂肪酸の向上を計り、日増体1.3-0.9kg、枝重は短縮肥育で450-540kg、総頭数303頭で肉質等級は品種や系統の改良量を維持とされています。

3) 和牛ゲノムデータベース協議会の立ち上げ

(佐々木慎二:琉大、篠田満:畜技協)

この協議会は和牛造成機関・研究機関が収集・構築してきたゲノム情報を一括管理するもので、国内の情報利用者のニーズに広く対応して情報を確実に提供し、遺伝的不良形質の排除、交配計画に利用されて黒毛和種の改良に資することが目的です。

4) 水田飼料作を基盤とする資源循環型牛乳・牛肉生産の手引き (農・食産技総研機構)

この手引きは1)水田を活用した飼料生産技術編、2)飼料の効率的収穫調製・流通技術編、3)牛乳生産編、4)牛肉生産技術編、5)経営評価編の5分冊にまとめられており、府県の

水田を基にした飼料用米やサイレージ用トウモロコシによる低コスト自給飼料生産とその利用手引きです。

2. 「新型コロナウイルス感染症パンデミックの経験を乗り越えて次の畜産を考える」第17回資源循環型牛肉生産シンポジウム2020, 日本産肉研究会第26回学術集会 要旨集

1) 基調講演: 畜産における人畜共通感染症

(高井伸二、北里大)

2) 話題提供1: 相場の影響をうけにくい経営を目指して

(上田金穂、北十勝ファーム)

3) 話題提供2: 流通業者視点での新型コロナウイルス拡大の影響と対策(岩崎方保、マルハニチロ)

4) 話題提供3: Withコロナの視点-消費者からみた新スタイル(北村貴、グロッキー)

5) 話題提供4: 肉専用種枝肉共励会の成績について

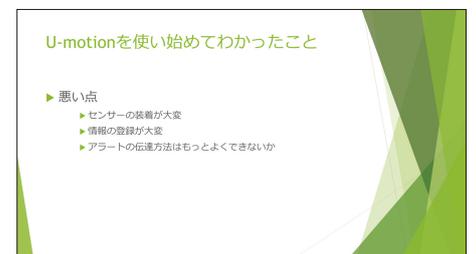
(口田圭吾、帯畜大)

今年環境リサイクル肉牛協議会のシンポジウムのテーマは新型コロナウイルス感染症拡大の肉牛産業への影響です。基調講演と話題提供、パネルディスカッションで構成しています。人類とウイルスの関わりは古く、避けることはできず、今回は食産業を介しての人間社会の経済活動への影響は大です。人間社会の安全・安心を得るには消費者に信頼される食肉生産の体制を確立することが肝要です。持続可能な農産物の生産構造の変革や地球環境の変化への対応も議論したいと思いました。

資源循環型肉牛生産シンポジウム 2019

話題提供3. 「IoT技術の肉牛生産への活用事例」全5回シリーズ⑤

(株)デザミス研究開発部、藤谷牧場



転載・再利用は固くお断りします